

# 平成 30 年度(2018 年度) 北海道産業廃棄物処理状況調査結果概要

## 1 発生及び処理状況

平成 30 年度 1 年間の道内の産業廃棄物量は、図 1 に示すように発生量は 40,702.7 千トンとなっており、このうち有価物の 1,531.4 千トンを除いた 39,171.3 千トンが廃棄物として排出されている。

排出された 39,171.3 千トンのうち、再生利用された量が 22,221.3 千トン(排出量の 57%)、減量化された量が 16,256.9 千トン(同 42%)、最終処分された量が 681.9 千トン(同 2%)、自己保管・その他等量が 11.2 千トン(同 0%)となっている。

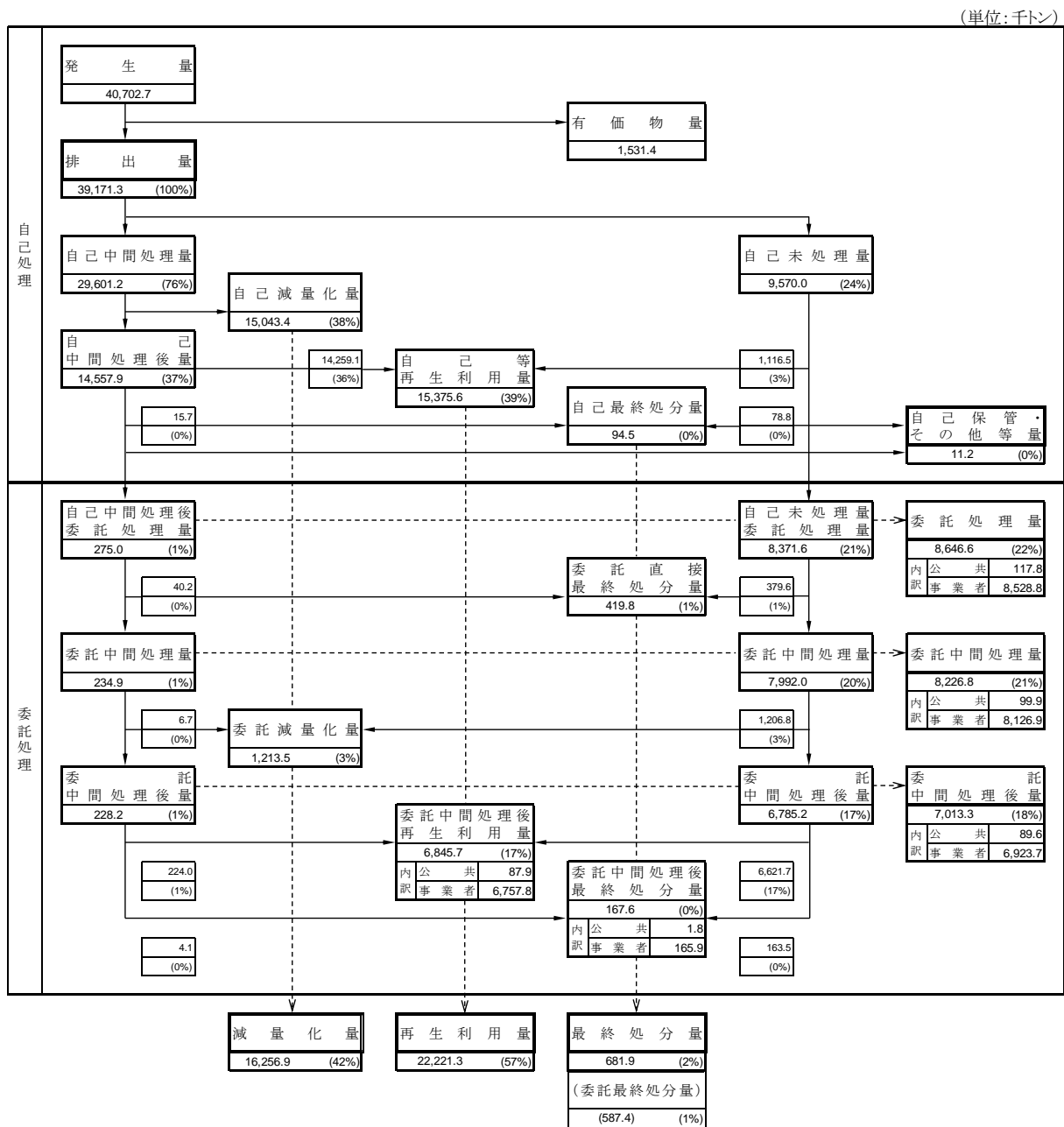
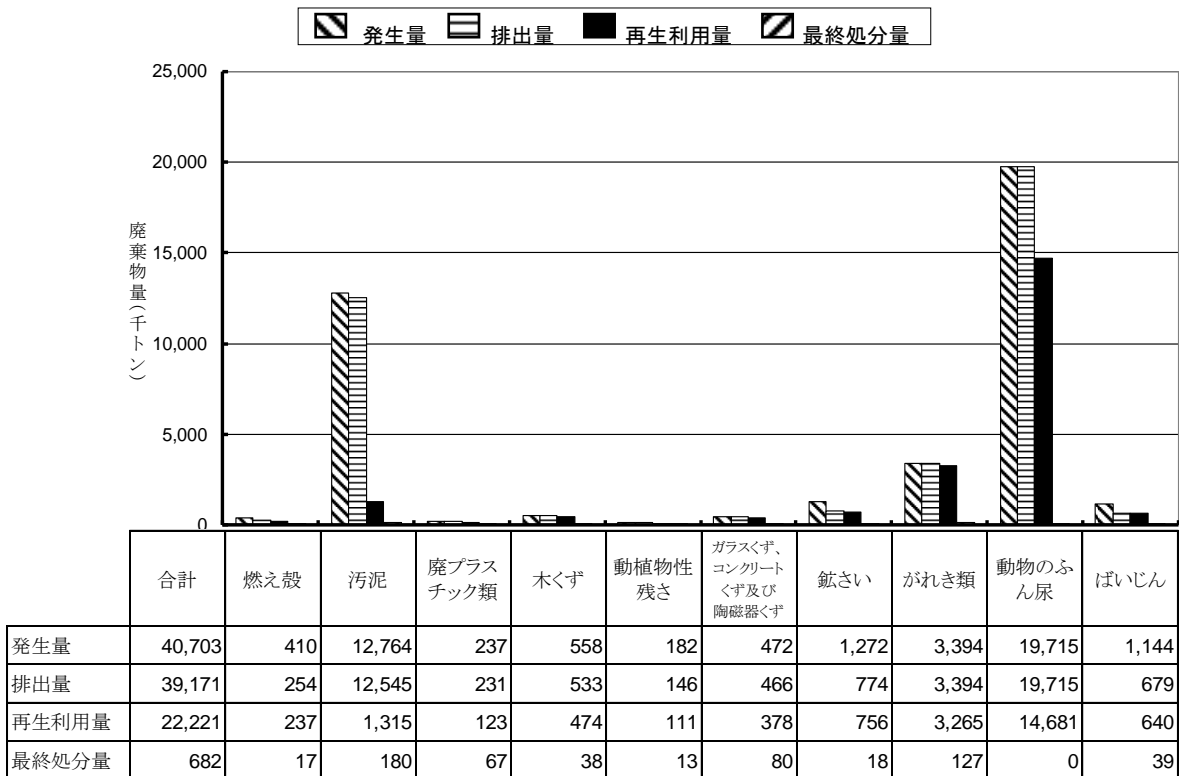


図 1 産業廃棄物の発生及び処理状況

## 2 廃棄物種類別の結果概要

- ・廃棄物種類別の発生及び処理状況は、図2-1～図2-5に示すとおりである。
- ・発生量(40,703千トン)の内訳をみると、
  - ①動物のふん尿 19,715千トン(全発生量の48%)
  - ②汚泥 12,764千トン(同 31%)
  - ③がれき類 3,394千トン(同 8%)の順となっている。
- ・排出量(39,171千トン)の内訳をみると、
  - ①動物のふん尿 19,715千トン(全排出量の50%)
  - ②汚泥 12,545千トン(同 32%)
  - ③がれき類 3,394千トン(同 9%)の順となっている。
- ・再生利用量(22,221千トン)の内訳をみると、
  - ①動物のふん尿 14,681千トン(全再生利用量の 66%)
  - ②がれき類 3,265千トン(同 15%)
  - ③汚泥 1,315千トン(同 6%)の順となっている。
- ・最終処分量(682千トン)の内訳をみると、
  - ①汚泥 180千トン(全最終処分量の 26%)
  - ②がれき類 127千トン(同 19%)
  - ③ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず 80千トン(同 12%)の順となっている。



注) 発生量の多い上位10種類の産業廃棄物について示す。

図 2-1 産業廃棄物種類別の発生及び処理量

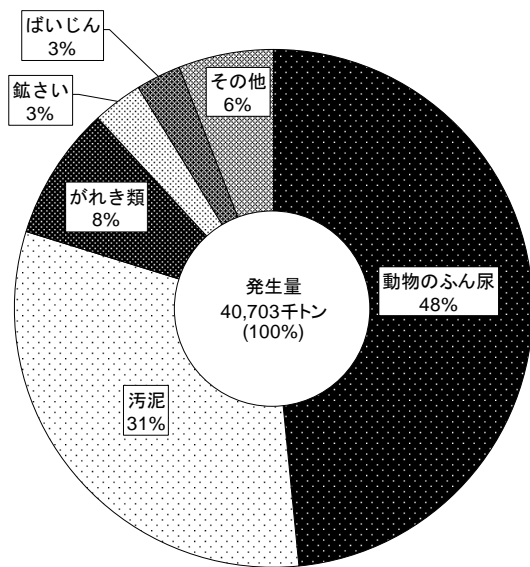


図 2-2 廃棄物種類別発生量の割合

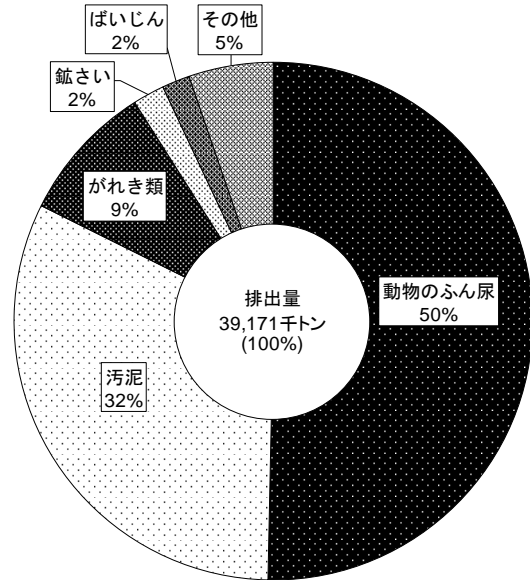


図 2-3 廃棄物種類別排出量の割合

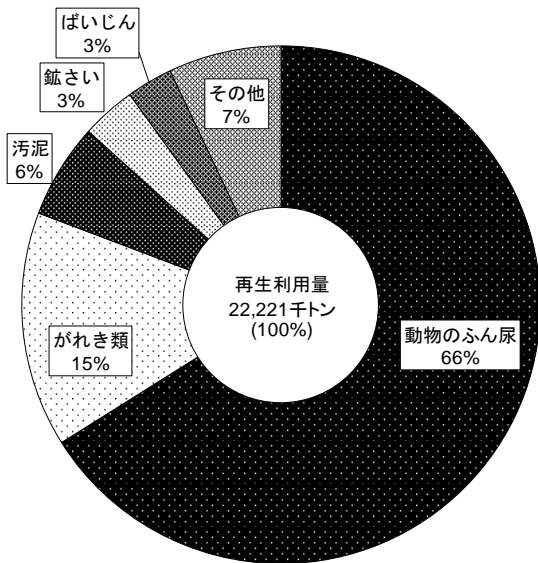


図 2-4 廃棄物種類別再生利用量の割合

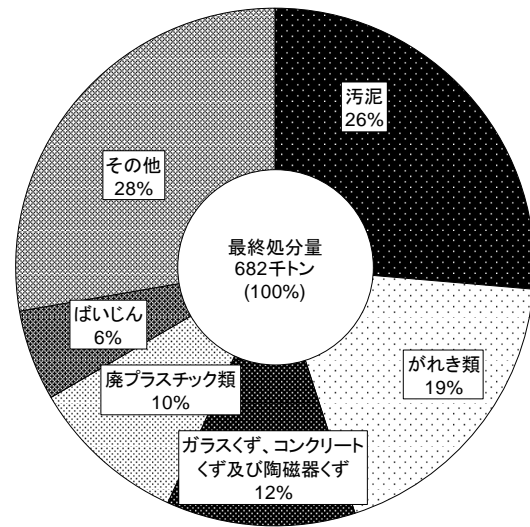


図 2-5 廃棄物種類別最終処分量の割合

注) 端数処理のため、割合 (%) の合計が100%にならない場合がある。

### 3 業種別の結果概要

・業種別の発生及び処理は、図3-1～図3-5に示すとおりである。

・発生量(40,703千トン)の内訳を業種別にみると、

- ①農林漁業 19,912千トン (全発生量の49%)
- ②製造業 10,324千トン (同 25%)
- ③電気・水道業 5,773千トン (同 14%) の順となっている。

・排出量(39,171千トン)の内訳をみると、

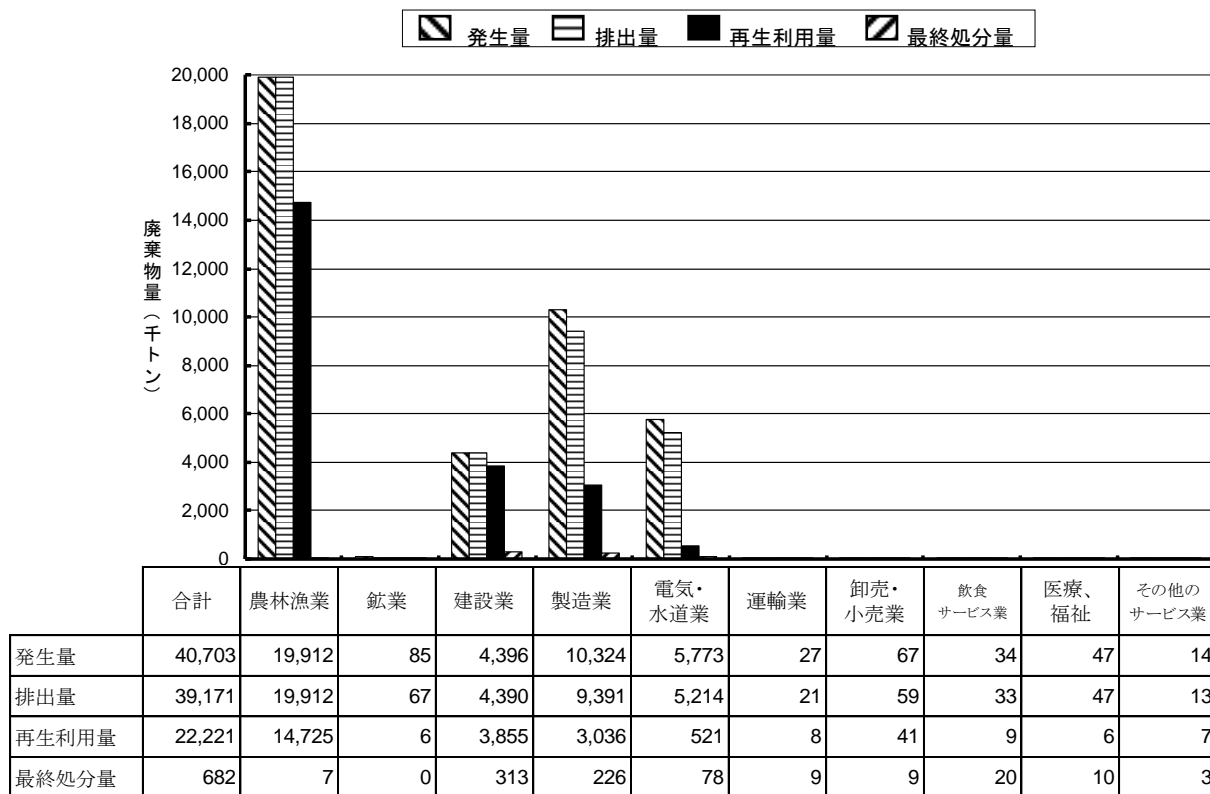
- ①農林漁業 19,912千トン (全排出量の51%)
- ②製造業 9,391千トン (同 24%)
- ③電気・水道業 5,214千トン (同 13%) の順となっている。

・再生利用量(22,221千トン)の内訳をみると、

- ①農林漁業 14,725千トン (全再生利用量の66%)
- ②建設業 3,855千トン (同 17%)
- ③製造業 3,036千トン (同 14%) の順となっている。

・最終処分量(682千トン)の内訳をみると、

- ①建設業 313千トン (全最終処分量の46%)
- ②製造業 226千トン (同 33%)
- ③電気・水道業 78千トン (同 11%) の順となっている。



注) 発生量の多い上位10種類の業種について示す。

図 3-1 業種別の発生及び処理量

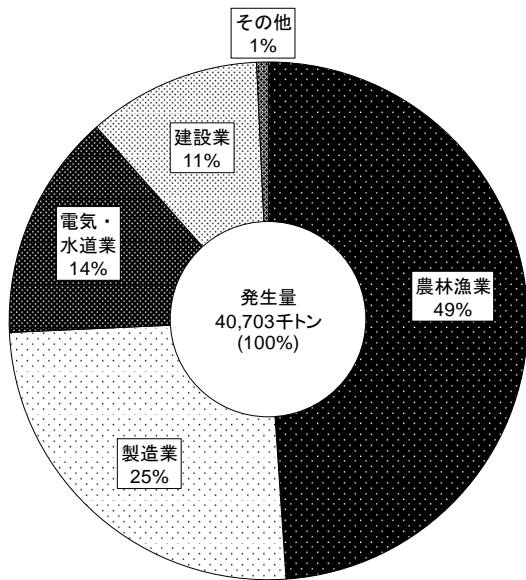


図 3-2 業種別発生量の割合

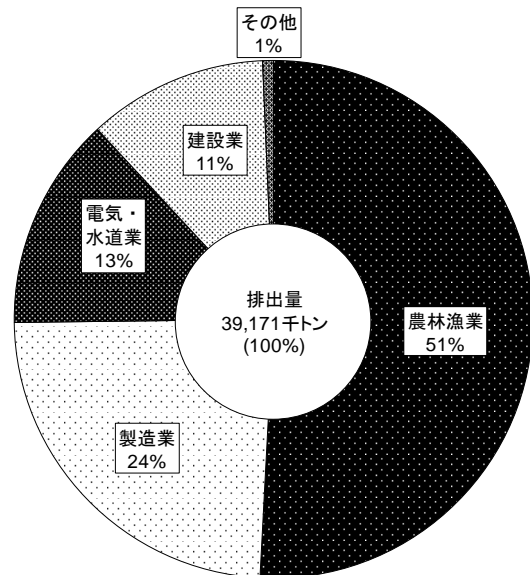


図 3-3 業種別排出量の割合

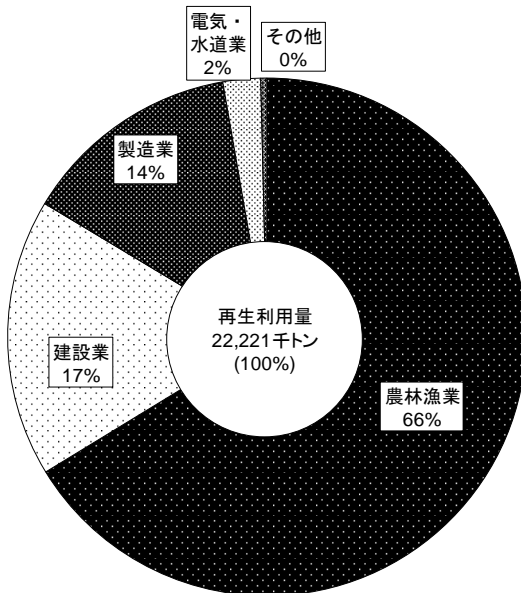


図 3-4 業種別再生利用量の割合

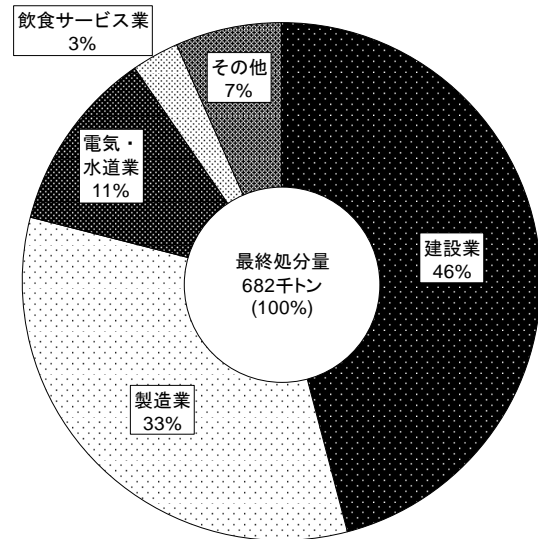


図 3-5 業種別最終処分量の割合

注) 端数処理のため、割合 (%) の合計が100%にならない場合がある。